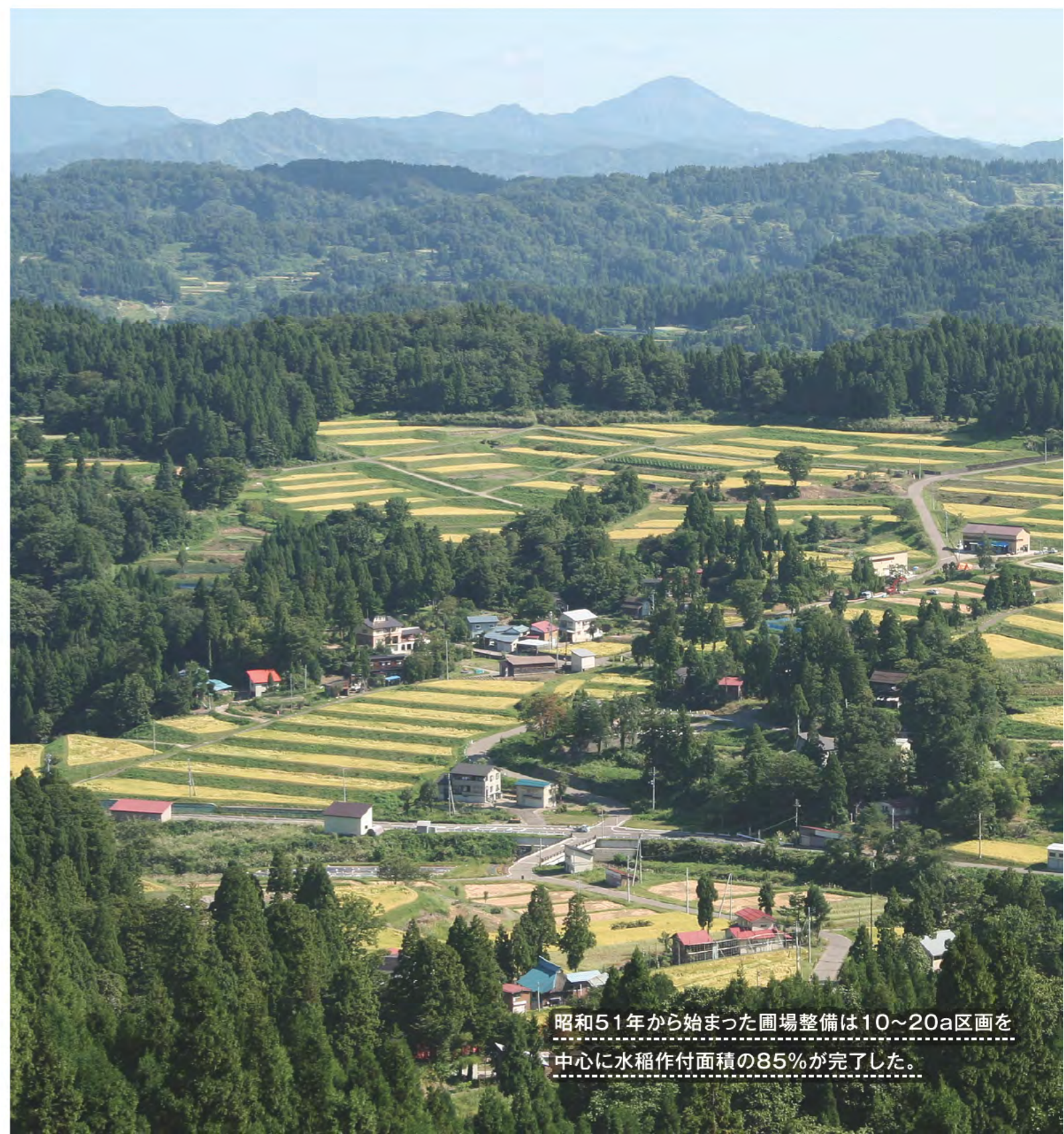


# 櫛池地区 将来ビジョン

平成28年3月 櫛池農業振興会



## 櫛池地区将来ビジョン

平成28年3月発行  
発行者／櫛池農業振興会  
編集・制作／株式会社グリーンシグマ

昭和51年から始まった圃場整備は10～20a区画を  
中心に水稻作付面積の85%が完了した。

## 会長のあいさつ

櫛池農業振興会 会長：上原 清則

**櫛**池地区は、過疎地域、特別豪雪地帯、特定農山村地域に指定されている住環境の厳しい地域です。人口減少と高齢化が進行し、農家数も減少しています。過疎化・高齢化による農業の衰退の危機感から、地区の農業・農地の維持を目的として、平成18年に「櫛池地区農業振興会(後に櫛池農業振興会と改称、以下振興会)を設立しました。それ以降、振興会が中心となって農業法人の設立支援や国等の補助事業の事務支援等、農業・農村の活性化に向け鋭意活動を行ってきました。

振興会は、地域の課題を解決するために各種部会を設置し、農業の維持・活性化の取組のみならず、高齢者の生活支援(除雪支援等)を行うなど、地区全体の農業・生活を支援する組織になりつつあります。

最近では、地域で唯一のガソリンスタンドの閉鎖や、平成28年の営業をもって休館となる山荘京ヶ岳の問題など、地域のにぎわいが失われつつあり、地域を取り巻く状況は非常に厳しいと言えます。将来の明るい見通しが立ちにくい中で、農業・農村の維持・活性化を図るためには、これまで以上に振興会が担う役割は大きくなっていくと思われます。将来的には、振興会の構成員も高齢化が必然であることから、農業・農村の担い手の確保や育成が急務となっています。

そんな折に、農林水産省の「農村集落活性化支援事業」に応募し採択されました。平成27年度は、地域のみなさんにお集まりいただき、地域の将来について話し合いを行ってきました。その結果をまとめたものが、この「櫛池地区将来ビジョン」です。

この将来ビジョンには地域の活性化に向けた今後の取組を掲載しています。これまで培ってきた櫛池型農業を継続し、地域外の支援を受けながら地域が連携して取り組めば実現は可能です。地域の美しい農地を守り農業振興を図るために、一人一人が主体的に取り組みましょう。

## 農村集落活性化支援事業に なぜ取り組むのか？

**櫛**池地区では、人口減少や高齢化が進んでおり、農地や集落の維持が難しくなっています。そのため、地域全体の存続を図るための取組や、集落間の連携等によってお互いの労働力不足を補完する取組などを支援する当事業を活用し、地域ぐるみの集落の維持・活性化を図ってまいります。

平成27年度はアドバイザーを活用した座談会を4回開催しました。その座談会で地域のみなさんと将来どうやっていきたいかを話し合い、将来ビジョン(目指す将来像や具体的な取組)を作成しました。

当事業期間は平成31年度までの5年間です。その間で、将来ビジョンでまとめた取組について、国の支援を受けながら主体となって取り組みます。

## 事業実施主体の構成員

本事業を実施する構成員は、各支部や法人のほかに、営農指導等の支援を行う立場として上越市も入っています。

### ■ 事業実施主体の構成員・連携団体

	構成員となる個人及び団体	法人形態等	主な活動
地域のくらしと 農業生産	青柳支部	農林団体	農業生産活動
	梨窪支部		
	鶯沢支部		
	上中條支部		
	鈴倉支部		
	寺脇支部		
	東戸野支部		
	棚田支部		
	北野・水草支部		
	梨平支部		
地域の農業生産	赤池支部	農林団体	農業生産活動
	上田島支部		
	(農)北野生産組合		
	(農)TONOファーム		
	(農)青柳生産組合		
	(農)水倉ファーム		
	(有)グリーンファーム清里		
	清里水稲採種組合		
	青柳水稲採種組合		
清里水稲採種組合上中條支部			
棚田生産組合			
清滝ファーム梨平			
行政	上越市	行政団体	地域活動支援
連携	笹川農場	農林団体	農業生産活動
	公益財団法人清里農業公社		

## 檜池地区の基礎データ

**檜**池地区の人口は10年前と比べて264人減少しています。64歳以下は209人、65歳以上は55人減っており、高齢化率は37.2%と少子高齢化が進んでいます。

2010農林業センサスによると、農家戸数は兼業農家が減り、農家人口も64歳以下、65歳以上の両方とも減っています。若い農家が少なくなり、農業における高齢化率も高くなっています。農地面積は水田が21.9ha増加しています。

※農林業センサスでの農地面積は、農業者が基準日現在の経営面積を記入することになっています。2010調査では21.9ha増えましたが、地区以外の水田が加わったことによるものと推察します。檜池地区の農業法人を始めとする担い手は、経営強化のために菅原地区の農地を借り入れていますので地区で集計しますと面積は増えることになります。

### ■人口・世帯数

		平成17年	平成27年
人口	総数	1,082人	818人
	0-14歳	118人 (10.9%)	59人 (7.2%)
	15-64歳	605人 (55.9%)	455人 (55.6%)
	65歳以上	359人 (33.2%)	304人 (37.2%)
人口増減割合(対10年前)(%)		-	75.6%
世帯数	総数	306戸	271戸
	高齢者(65歳以上)のみ	59戸 (19.3%)	60戸 (22.1%)*
平均世帯人員数(総人口/世帯数)		3.5人	3.0人

出展：年齢別人口集計表(上越市市民課)  
※平成22年度国勢調査による。

### ■農家戸数

		平成17年	平成22年
農家戸数	総数	148戸	109戸
	専業農家	18戸 (28.2%)	19戸 (30.3%)
	兼業農家	130戸 (71.8%)	90戸 (69.7%)
農家人口(世帯員数)	総数	531人	375人
	15-64歳	348人 (65.5%)	244人 (65.1%)
	65歳以上	183人 (34.5%)	131人 (34.9%)
農家増減割合(対5年前)(%)		-	73.6%

出展：農林業センサス(2005、2010)

### ■農地面積

	平成17年	平成22年
水田	265.0ha (89.8%)	286.9ha (91.0%)
畑	4.1ha (1.4%)	4.6ha (1.5%)
樹林地	1.1ha (0.4%)	0.0ha (0.0%)
耕作放棄地	24.9ha (8.4%)	23.7ha (7.5%)
計	295.1ha	315.2ha
農地面積増減割合(対5年前)(%)	-	106.8%

出展：農林業センサス(2005、2010)

※()内は全体に対する割合。

## 地域の課題

### 地域の暮らし

- 積雪2mを超える豪雪地帯であり、移動手手段の確保や屋根の雪下ろしなど、特に高齢者にとっては負担が大きくその支援体制の充実が課題です。
- 人口減少・流出に歯止めをかけ、交流人口の拡大を図るためには、地域の魅力を創り出すことが必要です。

### 農業振興

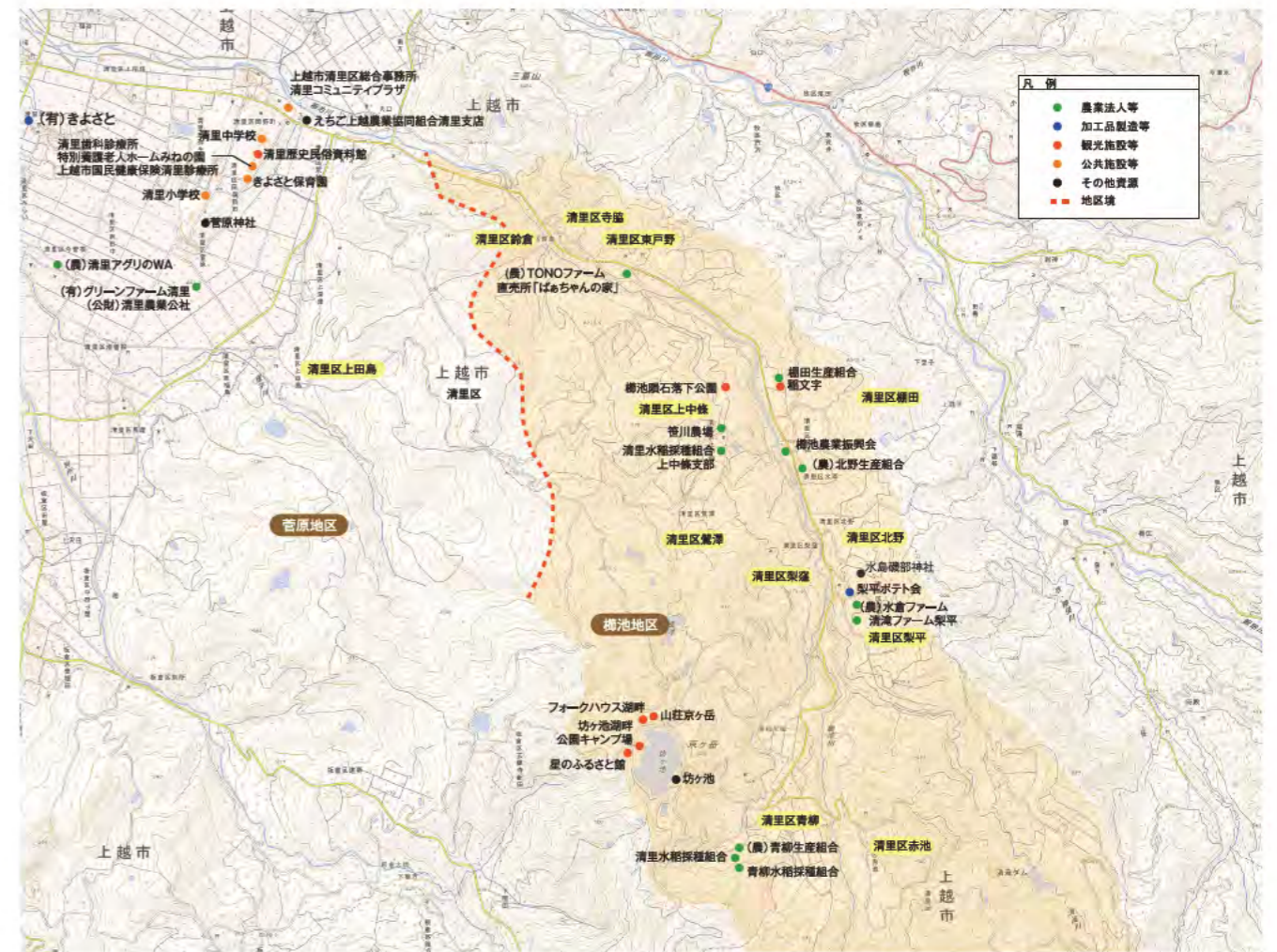
- 高齢農業者等の離農が予想される中で、現在の農業法人(5組織)では、離農面積を全て担えないため、組織化された新たな担い手の確保が必要です。
- 冬期間の仕事の確保や、各農業法人がすでに取り組んでいる直売所や加工品の販売を拡大し、年間所得を増加させ就業を安定させることが課題です。

### 都市交流

- 地域の活力を創出していくために、農産物の販売やグリーンツーリズムなどを通して、交流による喜びや生きがい、収入の確保につなげていく必要があります。

### 振興会組織の強化

- 振興会がこれまで取り組んできた各事業を継続し成果を生み出していくためには、構成組織のみならず事業基盤としての振興会自体の組織強化が必要です。



## 将来ビジョン策定の経緯

**将**来ビジョンの策定に向けて檜池地区では全6回の座談会を行いました。毎回30人程の地域の方々に参加していただき、事業についての意識共有から始めて、回数を増やすごとにより具体的な意見をいただきました。また、4回の座談会のほかに、若者だけを集めた座談会や女性を対象としたヒアリングを行いました。

## 座談会の全体スケジュール



### 第1回座談会

まず本事業の内容を確認し、その後参加者の方々から地域の課題を発言していただきました。

- ・地域の施設がなくなってきている
- ・若い人が残らない
- ・コメの値段が下がっている

### 第2回座談会

地域の課題を受けて、担い手育成、地域の維持、振興会の組織強化の3つのテーマ別に具体的な取組について話し合いました。

- ・地域外の人々の様々な受入方法を検討してはどうか
- ・山荘京ヶ岳はなんとか守りたいが・・・
- ・雪、ホタル、星などの地域資源を活用する

### 若者座談会

若い人たちと地域にとって重要なことや望ましいと思うものについて話し合いました。

- ・雪下ろしの支援が必要
- ・人を集めるための地域の魅力づくりが必要

### 第3回座談会

今後5年間の取組の進め方を確認しました。

- ・農地を守らなければ集落がなくなる
- ・振興会の組織強化の方向性を検討すべき
- ・川崎市に限らず首都圏との交流を促進する

### 第4回座談会

これまでの話し合った取組の確認を行い、参加者の承認が得られました。また、最後にアドバイザーである新潟大学名誉教授：伊藤忠雄先生から総括していただきました。

### 女性ヒアリング

法人に所属する女性に対して、現在の状況や今後の加工品に関する展望について話を伺いました。

- ・各法人の加工所の貸し借り、人手の移動もありでは

## アドバイザーのことば

新潟大学名誉教授：伊藤 忠雄先生

**約** 2時間の座談会を4回実施して時間をかけて話し合いが行われました。この費やした時間は檜池地区の将来ビジョンの集約につながると感じています。将来ビジョンづくりの第一段階はうまく進んできたと思いますが、ここからが本番です。これらの取組をどうやって育てていくか、実現していくかになると、誰が主体的に動かしていくかということになります。この将来ビジョンをどうやって集落の人たちに広めるか、地域のみなさんに参加してもらわないといけません。

来年度、檜池地区は変わります。動き出す方向性は示されたと思います。これからの檜池地区に大変期待しております。

**今後の取組と主体** 将来像を実現するための具体的な取組と中心になって行う主体は、以下のとおりとなります。

目指す将来像	今後の取組	取組主体
<p>将来像1</p> <p>高齢化等で離農者が増える見込みの中、 地域が一丸となって 農地を使いやすく整備、管理し、 美しい棚田が残っていく地域</p>	<p><b>1 集落や農地の維持</b> 地域の喫緊の課題である集落機能や農地を維持するための取組を行います。</p> <p><b>1-1 集落の維持</b> 雪下ろしや送迎、近くのお店の再興などの特に高齢者に対する生活支援や、集落機能の維持のための担い手の確保に取り組みます。</p> <p><b>1-2 農地保全</b> 振興会や各法人による農地整備などや趣味農業などの幅広い人材を受け入れて農地を保全する仕組みを整えます。</p> <p><b>1-1-1 雪下ろしの支援</b> <b>1-1-2 高齢者等の送迎の仕組みづくり</b> <b>1-1-3 婚活の推進</b> <b>1-1-4 商店等の再興</b></p> <p><b>1-2-1 自力での農地整備</b> <b>1-2-2 趣味農業など幅広い人材の受け入れ</b></p>	<p>榑池農業振興会 ・高齢者生活部会</p> <p>榑池農業振興会 ・法人部会</p>
<p>将来像2</p> <p>多様な主体が関わり 新たな農業が展開される地域 法人間や集落間の連携が進むだけでなく、 女性や若者などの横のつながりも増え、 新たなグループや取組が 自発的に生まれていく地域</p>	<p><b>2 農業振興</b> 安定した収入を確保するための販売拡大、地域内外の人材を活用した新たな担い手の確保や組織強化の取組を行います。</p> <p><b>2-1 販売拡大</b> これまでの直売所や加工品販売の取組を継続しつつ、新たな販路開拓や特産物の開発に取り組みます。</p> <p><b>2-2 担い手づくり</b> 地域外の人材を活用する取組や、地元若者が農業や地域を考える場となる検討会を行います。</p> <p><b>2-3 構成組織の強化</b> 法人や集落間の連携を促進し活動の活性化を図ります。</p> <p><b>2-1-1 庭先集荷の実施</b> <b>2-1-2 農産物の宅配</b> <b>2-1-3 特産品の開発</b></p> <p><b>2-2-1 人を集めるための地域の魅力づくり</b> <b>2-2-2 多様な主体との連携</b> <b>2-2-3 地元若者による検討会</b> <b>2-2-4 地域おこし協力隊等の導入検討</b></p> <p><b>2-3-1 女性や若者など法人間・集落間の横断的なグループづくり</b> <b>2-3-2 団体間の施設・設備の共有</b> <b>2-3-3 個人経営体の経営改善</b></p>	<p>榑池農業振興会 ・農産物加工・販売部会</p> <p>榑池農業振興会 ・法人部会</p>
<p>将来像3</p> <p>川崎市との交流をより密にするとともに、 地域資源を活かした新たな交流にも 挑戦していく地域</p>	<p><b>3 都市交流</b> 川崎市民との交流の継続・拡大を図りつつ、地域資源を活用した都市交流を促進する取組を行います。</p> <p><b>3-1 都市交流</b> かわさき市民祭りの参加を継続しつつ、新たな都市交流や体験イベントを企画し交流人口の拡大に努めます。</p> <p><b>3-2 農観連携の推進</b> 魅力ある榑池づくりのために、農産品のみならず地域内外に埋もれる資源を掘り起こし磨きをかけて、自慢の逸品を取り揃えます。</p> <p><b>3-1-1 かわさき市民祭りへの参加</b> <b>3-1-2 農業体験ツアー等の実施</b></p> <p><b>3-2-1 地域資源の掘り起こし</b> <b>3-2-2 地域資源の活用</b> <b>3-2-3 地域外資源の活用</b> <b>3-2-4 坊ヶ池周辺観光施設の活用検討</b></p>	<p>榑池農業振興会 ・都市交流部会</p>
<p>将来像4</p> <p>みなが安心、快適に暮らせ、 農地維持ができる地域を支援する組織</p>	<p><b>4 振興会の強化</b> 地域の農業や集落機能を支援する事業を継続していくために振興会の法人化を目指します。</p> <p><b>4-1 振興会の強化</b> <b>4-1-1 振興会の組織強化(法人化)</b></p>	<p>榑池農業振興会</p>

# 1 集落や農地の維持

## 1-1 集落の維持

雪下ろしや送迎、近くのお店の再興などの特に高齢者に対する生活支援や、集落機能の維持のための担い手の確保に取り組みます。

### 1-1-1 雪下ろしの支援

振興会高齢者生活部会が窓口となり、高齢者世帯の雪下ろしを支援します。

### 1-1-2 高齢者等の送迎の仕組みづくり

高齢者の交通手段として送迎の仕組みづくりを行います。

### 1-1-3 婚活の推進

商工会やJAなどと連携し婚活イベントを検討します。

### 1-1-4 商店等の再興

商店等の再興に向けた勉強会を行い、運営体制を検討します。

## 1-2 農地保全

振興会や各法人による農地整備などや趣味農業などの幅広い人材を受け入れて農地を保全する仕組みを整えます。

### 1-2-1 自力での農地整備

管理困難な農地を引き継ぐ仕組みをつくり、各法人による農地整備を行います。

### 1-2-2 趣味農業など幅広い人材の受け入れ

農業者に限らず、農地保全に寄与する幅広い人材の受け入れ体制を整えます。



重機による家屋等の雪処理



重機による農道整備

# 2 農業振興

## 2-1 販売拡大

これまでの直売所や加工品販売の取組を継続しつつ、新たな販路開拓や特産物の開発に取り組みます。

### 2-1-1 庭先集荷の実施

庭先集荷の仲間を増やし事業の拡大を図ります。



庭先集荷(あるるん畑)

上越妙高駅で出店

### 2-1-2 農産物の宅配

農産物や加工品の宅配事業に取り組みます。

### 2-1-3 特産品の開発

売れる商品をつくるために、視察や勉強会を行い特産品の開発に取り組みます。



先進地視察研修

## 2-2 担い手づくり

地域外の人材を活用する取組や、地元の若者が農業や地域を考える場となる検討会を行います。

### 2-2-1 人を集めるための地域の魅力づくり

地域の魅力を再発見し、磨いていくための検討を行います。

### 2-2-2 多様な主体との連携

集落出身者の作業手伝いや大学生の農業体験などの多様な主体と連携した人材確保に取り組みます。

### 2-2-3 地元若者による検討会

農業・地域の担い手となる若者の自発的な活動展開を図り、検討会を定期的に開催します。

### 2-2-4 地域おこし協力隊等の導入検討

地域おこし協力隊等の担い手となる人材の導入を検討します。

## 2-3 構成組織の強化

法人や集落間の連携を促進し活動の活性化を図ります。

### 2-3-1 女性や若者など法人間・集落間の横断的なグループづくり

個別に活動していた法人や集落の女性どうしの連携を促進し、活動の活性化を図ります。

### 2-3-2 団体間の施設・設備の共有

加工品の生産性の向上を図り、施設や設備の共有化を促進します。

### 2-3-3 個人経営体の経営改善

個人の担い手の経営改善に向けた情報を提供します。笹川農場の経営強化に向けて、法人化などの方策を共に検討していきます。

# 3 都市交流

## 3-1 都市交流

かわさき市民祭りの参加を継続しつつ、新たな都市交流や体験イベントを企画し交流人口の拡大に努めます。

### 3-1-1 かわさき市民祭りへの参加

かわさき市民祭りに出店し、農産物等の販売や体験交流ツアーの案内、榑池の紹介を行います。  
新たな交流グループを募集し交流イベントを行います。

### 3-1-2 農業体験ツアー等の実施

越後田舎体験の受入れ農家の支援を検討します。  
新たに田舎暮らしや農業体験イベントを行います。



かわさき市民まつりへの参加



夏の坊ヶ池



冬の坊ヶ池

## 3-2 農観連携の推進

魅力ある榑池づくりのために、農産品のみならず地域内外に埋もれる資源を掘り起こし磨きをかけて、自慢の逸品を取り揃えます。

### 3-2-1 地域資源の掘り起こし

見逃しがちな集落にある行事や料理などを収集し資源として活用します。

### 3-2-2 地域資源の活用

星やホタルなどあらゆる物が地域資源となります。  
農林産物や加工品に加えて、彩の鮮やかな資源を取り揃えて多方面で活用します。

### 3-2-3 地域外資源の活用

関田峠と牧峠、両峠に一番近いのは榑池です。  
くびき野パノラマ街道と東頸城広域農道が榑池周辺を横断しています。  
これらの道路や、近隣の著名な施設も資源としての活用を検討します。

### 3-2-4 坊ヶ池周辺観光施設の活用検討

山荘京ヶ岳等の活用方法を検討します。  
検討の際には、榑池の持つ資源の魅力をつるに盛り込む必要があります。

# 4 振興会の強化

## 4-1 振興会の強化

地域の農業や集落機能を支援する事業を継続していくために振興会の法人化を目指します。

### 4-1-1 振興会の組織強化(法人化)

定期的に将来ビジョンの点検と見直しを行います。



役員会



1	2
3	4
5	

1. (農)北野生産組合
2. (農)TONOファーム
3. (農)青柳生産組合
4. (農)水倉ファーム
5. (有)グリーンファーム清里

### 取組の推進体制

**将**来ビジョンの取組は、振興会が中心となって行っていますが、地域全体の取組となるため、若者や女性にも積極的な参画が期待されています。集落や法人から有志グループが形成され、振興会と連携して将来ビジョンに取り組む体制づくりを行います。

